

令和2年度

病害虫発生予察特殊報(第4号)

令和3年1月14日
神奈川県農業技術センター

病害虫名：オリーブカタカイガラムシ（学名：*Saissetia oleae* (Olivier)）
作物名：オリーブ

1 発生経過

令和2年12月、県西部のオリーブ生産ほ場において、カイガラムシ類の寄生とすす病の発生を確認した(図1,2)。農林水産省横浜植物防疫所に同定依頼した結果、オリーブカタカイガラムシと同定された。

本虫は、令和2年11月20日に静岡県からオリーブへの寄生と被害について特殊報が発表されているが、神奈川県では初めての確認である。

2 形態および生態

雌成虫は体長3~4mm、広楕円~円形で未成熟のうちは淡褐色、扁平で背面には顕著な「工」字形の隆起がある。成熟すると背面は半球状に膨らみ、「工」字形の隆起は不明瞭となってしわ状の小さな凹凸を生じ、著しく硬皮してほとんど光沢を欠き、暗褐~紫褐色を呈する(図3~5)。また、腹面の分泌管が1種類であること、体周の刺毛先端は前気門の前方に30本以下と少なく、先端が大きく広がらないことが特徴である。

年に数世代を繰り返し、幼虫は周年発生して年間を通して幼虫から成虫までの各態が見られる。雄は見られず、単為生殖を行い、成熟すると腹面の体周縁部をロウ質物質で寄主に固定させ、体下の空間に淡紫色の卵を数百個産下する(図6)。

3 被害および分布と寄主植物

(1) 被害

幼虫と雌成虫が細枝、葉面に寄生し、発生が多いと、生育が阻害され、落葉したり枯死葉を生じたりするほか、排泄物(甘露)で葉面や果実がべたついたり、すす病が誘発されたりして著しく品質が損なわれる。

(2) 分布と寄主植物

広食性で、オリーブ、カンキツ類、マンゴー、ヒメツバキ、モクダチバナ、アカテツ、コーヒーノキなど様々な樹木類に寄生する。世界中の温帯~熱帯に広く分布し、日本では小笠原諸島、南西諸島に分布するほか、各地の温室にも発生する。

4 防除対策

(1) 現在、本種に対する登録農薬はない。

(2) 本種に寄生された枝や葉は、見つけ次第除去し、適切に処分する。

(3) オリーブの苗を定植する場合には、本種の寄生に十分注意する。



図 1 枝と葉に寄生するオリーブカタカイガラムシ



図 2 オリーブカタカイガラムシが寄生した植物に見られるすす病



図 3 枝に寄生するオリーブカタカイガラムシ成熟成虫



図 4 枝に寄生するオリーブカタカイガラムシ未成熟成虫



図 5 オリーブカタカイガラムシ背面の「工」字状隆起



図 6 オリーブカタカイガラムシ成虫体内の卵と幼虫

神奈川県農業技術センター 病害虫防除部
〒259-1204 平塚市上吉沢1617
TEL 0463-58-0333 FAX 0463-59-7411
<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>